

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 27号

2012/12/2 発行

株式会社 立花商店

生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：レンジ内での小幅な範囲での取引に終始。週末に向けて僅かに上昇

①週最高：LDN 市場£1,586 / NY 市場\$2,498（共に11月30日）先週比 LDN-£11/NY-\$18
②週最低：LDN 市場£1,560 / NY 市場\$2,447（共に11月27日）先週比 LDN+£4/NY+\$26
週内差額（①-②）：LDN 市場£36 / NY 市場\$51

【26日（月）】LDN・NY ココア両市場とも反落

両市場とも反落した。コートジボワールの港湾に着荷する輸出用カカオ豆の品質改善がみられる。ニューヨークのあるディーラーは、「ミッドクroppが売られている。天候は申し分なかった」と述べた。ニューヨーク市場の3月きりは38ドル（1.5%）安の2478ドル、ロンドン市場の3月きりは13ポンド（0.8%）安の1584ポンドでそれぞれ引けた。

【27日（火）】LDN・NY ココア両市場とも続落

両市場とも続落し、100日間移動平均を下回った。最大生産国のコートジボワールのハーベストプレッシャーが背景。

ニューヨーク市場の3月きりは31ドル（1.3%）安の**2447ドル**、ロンドン市場の3月きりは24ポンド（1.5%）安の**1560ポンド**でそれぞれ終了した。

【28日（水）】LDN/NY ココア両市場とも反発

両市場ともに反発した。薄商いの中、レンジ内での取引が続いた。市場関係者は、西アフリカ諸国でのカカオ豆着荷量を注視。着荷量は市場予想を下回る水準で推移しており、相場の支援要因になっている。

ニューヨーク市場の3月きりは11ドル（0.4%）高の2458ドル、ロンドン市場の3月きりは11ポンド（0.7%）高の1571ポンドでそれぞれ終了した。

【29日（木）】LDN・NY ココア両市場とも続伸＝米財政の崖回避に期待感

米国の「財政の崖」問題が回避されるとの期待感を背景に上昇した商品相場全般や株式相場になびき、ニューヨーク市場、ロンドン市場ともに続伸した。

ニューヨーク市場の3月きりは33ドル（1.3%）高の2491ドルで終了。

ビジョン・ファイナンシャル・マーケットツ（シカゴ）のアナリスト、ボイド・クルーエル氏は「株式市場の上昇に追随した。一時は10月の高値である2530ドル前後の上値抵抗線に到達した」と指摘した。

一方、ロンドン市場の3月きりは14ポンド（0.9%）高の1585ポンドで引けた。ディーラーらは、ニューヨーク、ロンドン両市場ともに、テクニカル、もしくは需給面での明確な方向性が見えず、依然としてレンジ内での取引になっているとの見方を示した

【30日（金）】LDN・NY両市場とも小幅続伸

ニューヨーク市場は不安定な値動きながら小幅続伸し、3月きりは7ドル（0.3%）高の**2498ドル**で終了。月足ベースでは4%の上昇だった。

国際ココア機関（ICCO）が2011～12年度の世界ココア市場は供給過剰になるとの見通しを示したことに圧迫される局面もあったが、あと値を戻し、結局プラス圏で引けた。

ICCOは、前回見通しでは1万9000トンの供給不足としていたが、今回、9万トンの供給過剰に修正した。ロンドン市場も小幅続伸し、3月きりは1ポンド高の**1586ポンド**で引けた。

2、11~12年度の世界のカカオ豆、供給過剰に修正＝生産推計引き上げ—ICCO(11/30)

国際ココア機関（ICCO）は30日発表した4半期レポートで、2011～12年度（11年10月～12年9月）の世界のカカオ豆の需給について、従来予想の1万9000トンの供給不足から9万トンの供給過剰へ修正した。生産量が従来の見通しを上回ったとみられるため。

業界もおおむね供給過剰だとみているが、過剰量についてはさまざまな見方がある。

ICCOは、11～12年度の世界のカカオ豆生産量推計を405万トンとし、従来予想から9万トン上方修正した。ただ、前年度の431万トンは依然6.1%下回る。12～13年度については、供給不足になるとの懸念が高まっていると指摘した。業界の見通しは需給均衡から供給不足。

3、コートジのカカオ豆産地、メインクロープの生育見通し改善＝雨と晴天で(11/26)

コートジボワールのカカオ豆主産地の大半では先週、まとまった雨と晴天に恵まれ、乾燥シーズン（11月半ば～3月末）を前にしたメインクロープ期の生育見通しが改善された。農家やアナリストらが26日、明らかにした。

コートジボワール全体の4分の1のカカオ豆を生産する西部ダロアの農家からは、降雨のない日が2週間続いたが、その後、2度にわたり十分な降水量がもたらされたと報告されている。

農家によると、十分な水分が供給されればカカオ豆の樹木が強くなり、貿易風ハルマタンからカカオ豆が保護されるという。ハルマタンは、12月～3月にかけてサハラ砂漠から吹く強い風で、カカオ豆の大きさと品質に影響を及ぼす可能性がある。

ダロア郊外の農家は「農家は皆、喜んでいる。2度にわたり十分な雨が降り、日光もたくさん降り注いでいる」と説明。さらに「これらの雨で樹木は強くなり、ハルマタンが到来する前に、小さなさやの生育が促進されるだろう」と語った。西部産地のブアフレでも、前週は降雨不足だったが、豊富な雨が3度降ったと報告されている。

4、コートジ、25日時点のカカオ豆着荷量は29万3000トン＝輸出業者(11/26)

コートジボワールの輸出業者が26日示した推計によると、今年度（2012年10月～13年9月）の同国2港（アビジャン港とサンペドロ港）のカカオ豆着荷量は、25日時点で約29万3000トンとなった。前年同期は36万8956トン。11月19～25日の着荷量は約5万7000トンと、前年同期（7万5981トン）を下回った。

5、ガーナ、11月15日時点までの買付け数量は242,342トン＝前年対比27.6%ダウン(11/28)

ガーナで10月12日よりスタートしているニュークロップの買付け数量が11月15日時点までで前年同時期対比で27.6%減少となる、242,342トンとなったことをガーナ・ココアボードが発表した。2012/2013シーズンの第5週目となる週での1週間の買付け数量は28,892トンでその前週の34,389トンを下回った。

コートジに次ぐ世界第2位のカカオ生産国であるガーナは、今シーズンは80万トンの収穫数量になるだろうと予測している。

6、ブラジル10月度のカカオ磨砕数量、前年対比5%上昇（11/28）

10月度のブラジル全体のカカオ豆磨砕数量が21,340トンで前年同月比では5%上昇となったことが業界の統計データで判明した。ブラジルは世界第6位のカカオ生産国である。

下記は、この1年間のブラジル全体のカカオ豆磨砕数量の統計である。

	<u>トン</u>	<u>袋数量(60kg)</u>
OCT '12	21,340	355,672
SEP '12	20,226	337,104
AUG '12	21,892	364,869
JUL '12	20,858	347,626
JUN '12	19,136	318,933
MAY '12	18,556	309,273
APR '12	20,009	333,487
MAR '12	20,269	337,818
FEB '12	19,396	323,265
JAN '12	20,810	346,839
DEC '11	20,489	341,485
NOV '11	20,442	340,695
OCT '11	20,406	340,100

7,ブラジルカカオ収穫数量、前年対比で33%増加(11/28)

5月1日～11月25日までにブラジルの主要産地及び輸入で入荷したカカオ豆の合計数量が前年同時期と比較して33%上昇したことがバイア商業組合の提示した統計データにて判明した。ブラジルは天狗巣病でカカオ農園が壊滅的なダメージを受ける1990年代前半までは世界第2位のカカオ生産国であった。ブラジルは、現在丁度2012/2013年のメインクロップの収穫を開始したところである。

2012/13 シーズン着荷数量（期間 5/1～、カカオ豆袋単位＝ 60-KG ）

州	先週	合計
Bahia	51,157	2,070,852
Other states	16,473	801,950
Other nations	0	284,599
Total (袋)	67,630	3,157,401

Total(トン)	4,058	189,444

2011/12 シーズン着荷数量（期間 5/1～、カカオ豆袋単位＝ 60-KG ）

州	先週	合計
Bahia	67,959	1,584,448
Other states	10,340	543,643
Other nations	30,800	232,223
Total(袋)	109,099	2,360,314

Total (トン)	6,546	141,619

8, 特集記事：フェアトレード特集

先日、日本特定非営利活動法人フェアトレード・ラベル・ジャパン様に訪問し、最新の日本市場でのカカオ・チョコレート分野のフェアトレード商品の状況等についてお話を聞いて参りました。

以前の特集では概念や、対象産品、対象国などを取り上げさせて頂きましたので、今回の訪問では、より実務的な側面に注目し、『実際に、どうやったらフェアトレードチョコレートが日本で作れるのか？』について、ご質問をさせて頂き、下記の様な内容のご説明を頂きました。

①商品設計：

まず大前提として、原材料の中には、フェアトレードの対象の原材料と、対象外の原材料があります。対象外の原材料はフェアトレードの制度自体がない為、そのような原材料については、最初から対象外になります。（例えば、チョコレートの場合、全粉乳、脱脂粉乳、乳糖などの乳製品、植物油脂など）

その上で、

1、チョコレートの配合内で、フェアトレード対象の原材料については原則全てフェアトレード原料を使用しなければならない。

⇒チョコレートの生地配合を考えた際具体的に対象になるのは、カカオ原料（カカオマス、ココアバター、ココアパウダー等）、砂糖、バニラ香料です。

*但し調達が出来ないもの、極めて困難な物は理由を申請し別のもの代用することが可能です。

2、フェアトレード対象原材料で入手可能なものを100%使用したうえで、フェアトレード認証材料の配合が、全体の20%以上でなければならない。

***詳細の基準については、添付資料の資料にてご参考下さい。**

例) ミルクチョコレートの場合

砂糖：38%（フェアトレード対象商品なので、認証原料を原則100%使用する）

ココアバター：25%（フェアトレード対象商品なので、認証原料を原則100%使用する）

カカオマス：20%（フェアトレード対象商品なので、認証原料を原則100%使用する）

全粉乳：13%（フェアトレード対象商品ではないので、一般品を使用する）

脱脂粉乳：2%（フェアトレード対象商品ではないので、一般品を使用する）

乳糖：2%（フェアトレード対象商品ではないので、一般品を使用する）

レシチン：微量（フェアトレード対象商品ではないので、一般品を使用する）

バニラ香料：微量（フェアトレード対象商品なので、認証原料を原則100%使用する）

***但し、砂糖やバニラ香料は日本市場ではどうしてもフェアトレード品の調達が出来ないことも発生する可能性がある為、その様な場合に限り、フェアトレード・ラベル・ジャパン様に対して、状況を説明したうえで、承認後一般品にて代替することも可能**

②トレイスアビリティについて：

フェアトレードの目的の中で、最重要ポイントは、生産者の作った商品の対価としての支払い額の増加を実現すること。これにより生産者がより持続可能であり、さらに発展しうる環境を提供していくことです。

そして、フェアトレード認証は、根本的にはオーガニック等と違い、商品特性に由来する認証ではありません。

よって、フェアトレードプレミアムという増加分の対価をしっかりと支払うことと、商流の中に関係する全ての参加者がトレイスアビリティを担保する、確認することが重要な実施項目になります。

フェアトレード認証の監査にて、重きをおかれているのはこの仕組みの受益者である生産者の組織体制やルール徹底といった部分になり、それ以降の輸出者、輸入者、製品の製造企業は勿論全てフェアトレードの申請、許可、監査を受けなければなりません。重要事項は”トレイスアビリティ”の担保であり、どこのチョコレート製造企業様でも製造設備等への追加投資なく、フェアトレードの認証を取得出

来るレベルのもので。

書類上の管理が主要な業務追加事項であり、それも決して特殊な事項の管理ではない為、難しくはないことも今回知ることが出来ました。

③製造者の申請、監査について、

良く誤解を生みやすいポイントとして、有機（オーガニック）などの様に、『ラインを別にしなければならぬ』とか『コンタミがあってはならない』などがフェアトレードにも当てはまるのではないかとお聞きすることが御座いますが、フェアトレードの製造者の申請、許可、監査の過程ではこれは大きな問題ではなく、可能な範囲での区分けが出来ており、前述の通り、書類上での適切な管理が出来ていることが重要です。フェアトレードの考え方は極論すれば、その原料が正確にレシピに組み込まれているかということよりも、フェアトレード対象製品の購買数量に対して、正しいルールに基づき、きちんとした対価を支払って、製品を製造しているとい支払のスキーム自体に重きを置いているよう感じます。

申請の方法も簡単且つ、フェアトレード品としての製造の開始は申請終了後開始することが可能で、監査自体は申請の後、6カ月以内に行うというスケジュールで進行します。（監査の前に販売が可能）

④当社の扱い品目：

弊社は、フェアトレード認証のカカオ原料、バニラ香料の取扱いを今後拡充し、注力して参ります。下記がその商品ラインナップになります。

《フェアトレード認証取得原料》

①ガーナ産カカオマス *現在既に取り扱っております。

②シエラレオネ産カカオ豆 *現在既に取り扱っております。

③ガーナ産ココアバター（脱臭・ナチュラル） 2013年3月より販売開始

④ガーナ産ココアパウダー 2013年3月より販売開始

⑤バニラ抽出物、バニラ香料 2013年4月より販売開始

価格につきましては、別途ご案内させていただきますが、カカオ原料では現在通常品と比べて、大よそ10%程度高い価格でのご案内となります。

個別企業の皆様の中で更に具体的な情報を調査したという御要望をお持ちのお客様がいらっしゃいましたら、弊社までお問い合わせ頂ければある程度のレベルまで情報提供をさせていただきます。更に詳細につきましては、弊社より日本特定非営利活動法人フェアトレード・ラベル・ジャパン様ご紹介をさせていただきます。

また、直接お問合せをご希望される方は、下記がご担当者様になりますので宜しくお願い致します。

特定非営利活動法人 フェアトレード・ラベル・ジャパン

事務局長：中島 佳織 様 TEL：03-5652-4846

WEB SITE: www.fairtrade-jp.org



左) マーケティングマネージャー松井様

打合せの様子

右) 事務局長 中島様

中島様、松井様をはじめとしてスタッフの方々は、各業界でフェアトレード商品を更に拡大していくためにとても尽力されている印象を持ちました。また既に近年、イオン様や無印良品様などでチョコレート関連商品もフェアトレード商品が増えつつあることもあり、我々チョコレートの業界の業界特性等も非常によくご理解されていると感じました。

弊社の様々な質問事項に対しても好意的に受け止めて頂き、あらゆる質問に対して、実務的で迅速なご返答を頂いたため、短い時間では御座いましたが、フェアトレードに対する理解を深めることが出来ました。申請に興味をお持ちの方は是非お問合せ頂ければと思います。

*フェアトレードの知識、理解に関して弊社の認識が正しくない部分があることも御座います。あくまで弊社と致しまして感じた内容として纏めてご報告させて頂いております。ご了承のほど宜しくお願い致します。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田 TEL03-5783-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp